



情報通信技術で Well-being な社会を創る

総務省国際戦略局技術政策課長

新田 隆夫 NITTA Takao

- 平成 4年 4月 郵政省採用
同 放送行政局技術課
- 平成 5年 7月 同 放送行政局技術課デジタル放送技術開発室
- 平成 6年 7月 同 電気通信局電波部計画課
- 平成 7年 6月 公正取引委員会事務局取引部取引課取引方法係長
- 平成 8年 6月 同 事務総局経済取引局取引部取引企画課取引方法係長
- 平成 9年 7月 郵政省電気通信局電波部移動通信課第二技術係長
- 平成 10年 6月 同 電気通信局電波部移動通信課専門職
- 平成 11年 7月 同 大臣官房国際部国際政策課課長補佐
- 平成 13年 1月 総務省総合通信基盤局国際部国際政策課国際機関室課長補佐
7月 同 情報通信政策局地域放送課課長補佐
- 平成 15年 8月 通信・放送機構研究企画管理部研究管理課課長代理
(ワシントン事務所)
- 平成 16年 4月 独立行政法人情報通信研究機構総合企画部企画戦略室
(ワシントン事務所) マネージャー
- 平成 17年 8月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐
- 平成 19年 7月 同 総合通信基盤局電波部電波政策課統括補佐
- 平成 20年 7月 同 総合通信基盤局電波部電波環境課企画官
併任 認証推進室長
- 平成 21年 7月 同 総合通信基盤局電波部基幹通信課重要無線室長
- 平成 23年 7月 独立行政法人情報通信研究機構経営企画部統括
- 平成 24年 7月 内閣官房
- 平成 26年 8月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課国際周波数政策室長
- 平成 28年 6月 同 情報通信国際戦略局宇宙通信政策課長
- 平成 29年 7月 内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付参事官
- 令和 元年 8月 国立大学法人大阪大学教授(共創機構機構長補佐)
- 令和 3年 7月 現職

総務省で社会のデジタル化、スマート化に取り組む

私は、平成4年に郵政省(現総務省)に入省し、30年が経過しました。係員時代の入省1~2年目には、テレビジョン放送のデジタル化が私たちの社会や生活にもたらすメリットについて検討し、係長時代の入省6~7年目には、今のスマートフォンの原点とも言える3G(第3世代携帯電話)やWi-Fiの研究開発と技術基準策定に携わりました。

係員、係長当時、自分の仕事の成果がこの先10年後、20年後の未来社会にどうつながっていくだろうかとワクワクしていたことをよく覚えています。実際に、これらの情報通信技術・サービスは、今となっては私たちの身の回りにごく当たり前に存在する社

会インフラとして、私たちの生活を豊かにするとともに、あらゆる産業の効率化にも寄与しています。総務省での30年間の公務員生活を振り返ってみても、若手の頃から、公的な立場で我が国のデジタル社会、スマート社会の基盤作りに関わり貢献させてもらえたという実感があります。

国際的な俯瞰から地域密着まで

30年間の公務員生活の中では、国際関係の部署も多く経験しました。米国ワシントン駐在中には、米国連邦政府の情報通信政策を調査し、また、総務省のITU(国際電気通信連合)担当部署では、情報通信分野の国際的なルール作りに日本代表として参加し、外国政府の代表との交渉、調整に取り組んできました。国際場裡での外国政府とのやりとりの中で、世界の動向を踏まえて日本の情報通信政策がどうあるべきかという

俯瞰した思考が身につきました。また、米国で外国人、アジア人というマイノリティとして生活することで、社会の多様性・包摂性を自分ごととして考える貴重な機会にもなりました。

一方で、霞ヶ関の中にいるだけでは、地域が抱える社会課題の本質を捉えることは困難です。私は、令和元年度から2年間大阪大学に外向し、大学の知識を活用した産学官民の共創によって、特定の地域の社会課題を解決するプロジェクトの創出に従事しました。実際に地域の住民の方々との暮らしに直接触れそこから気づきを得ることで、本質的な社会課題に近づくことができます。テレコム採用技術系職員には、大学のほか地方自治体に向向する同僚や後輩も多くいます。地方の機関で仕事をする中で、現場の生きた情報や地域の本質的な課題に接することで、それを解決するための技術的方策を考える機会もあると思います。

総務省の枠を越えて

霞ヶ関に勤務する国家公務員は、とかく自らが所属する省庁の省益を追求するあまり「行政の縦割り」が過ぎるとの批判を受けがちです。確かに、各省庁が全く同じ施策に重複して予算をかけることは非効率ですが、各省がそれぞれ強みを持ち寄り同じ政策課題に政府一体で協力し合い対応する「各省連携」は、政府全体としての政策目標を実現する大きな推進力を生み出すものです。

内閣府に向向した際は、科学技術イノベーション政策に関する政府の司令塔として、各省の施策をとりまとめ政府戦略を創り上げる醍醐味を味わいました。「AI戦略」を担当した際には、総務省、文部科学省、経済産業省等の関係省庁と連携しながら、政府全体としてのAI研究開発、社会実装戦略、AI



AI原則に関する国際パネル登壇模様 2019年7月 パリ・ユネスコ本部



課内打合せ模様

若手職員の声



総務省国際戦略局技術政策課
長嶋 未来
(令和2年入省)

技術政策課は、情報通信に関する研究開発の推進等の幅広い業務を扱っています。私は入省以来、研究開発の支援や予算業務、委員会運営等の様々な業務を経験しました。大変やりがいがあり、勉強になることばかりで、楽しく仕事をしています。

新田課長は、お忙しい中でも大変朗らかな方で、また、常に課内全体に気を配ってくださいます。課内の皆さんもとても優しく頼りになる方が多いため、忙しい時でも課内の雰囲気は明るく、私も生き生きと日々の業務を進められています。

PROJECT

Beyond 5G 研究開発を推進しています

私が所属する技術政策課では、5Gのその先の情報通信インフラであるBeyond 5Gについて、Well-beingを実現するための2030年代の社会インフラに発展していくためにどのような研究開発課題に取り組むべきか検討、抽出し、産学官が連携して、Beyond 5G重要技術の研究開発に取り組んでいます。

社会原則などをとりまとめましたが、この経験は、総務省内にとどまらない政府全体からの広い視野を自分に与えてくれました。

皆さまが総務省に入省した後も、必ずしも総務省の枠にとらわれる必要はありません。省庁の垣根を越えて霞ヶ関の他省庁の同僚たちと連携しながら政府全体としての戦略を創ることで、政府の一員としてのやりがいも感じることができるようです。

Well-beingな社会の実現に携わろう

我が国、世界は、これまでの社会の効率化、スマート化、経済合理性の追求の一辺倒から、持続可能な社会や、誰もが自らの能力を発揮して生き生きと活躍することで幸福感を得られるWell-beingな社会の実現へと転換しつつあります。

これから10年、20年先のWell-beingな社会の実

現につながる情報通信技術の研究開発業務に、総務省の一員として一緒に取り組んでみませんか?

総務省では、皆さまがお持ちの様々な力、例えば「未来社会のビジョンを自由に発想する力」、「外国人とも物怖じせず交渉する力」、「物事の本質的な問題を見抜く力」、「多様なコミュニティの人たちと協力し合える力」といった能力を発揮し、生き生きと活躍できるWell-beingな職場環境の実現を目指したいと考えています。